

# 低学年におけるボール運動遊び 特に足を使ったものを中心に

高槻市立南大冠小学校（豊能・三島 B）

大瀬良 篤

## 0.はじめに

- ・本日はご参加いただきありがとうございます。
- ・簡単に自己紹介をします。4・1・算・算・4・専・専・専・専・2。
- ・今年度より転勤し、初めての2年生を担当しています。
- ・今回は、その2年生で現在進行中の「じゃまじゃまサッカー」を教材にした実践を報告します。

- ・同志会員歴が短い私ですので、これまで大切にされてきたこととは、一風違うところが出てくるかとは思いますが、その辺りもみなさんとともに、学び、深めることのできる時間になればと思います。
- ・どうぞよろしくお願いいたします。

## 1.子ども・学校の様子

私の勤務する学校は、高槻市の南に位置し、高槻市であるにも関わらず、最寄駅は「枚方公園駅」です。南には淀川が広がり、昔に堤防が切れ、校区全体が沈没するほど洪水（＝大塚切れ）があった地域です。

学校規模は各学年3クラス程度の中規模校で、校区には複数の府営住宅が建っています。また、10年ほど前に淀川のすぐそばに、高層マンションが建っています。数年前まではとても荒れており、私が赴任した10年前は、「荒れている学校」とのイメージがあったことを覚えています。

しかし、赴任してみると、子どもたちは非常に人懐こく、すぐに目に見えるような「荒れ」はありません。クラスの31人の子どもたち（男：17人、女：14人、内支援学級在籍：3人）は、体を動かすことが基本的に好きで、体育が好きと言う子が多くいます。また、話し合いをすることは大好きで、毎週の特別活動は、必ず学級会を開いて、色々なことを議論しています。

一方で、慎重派の子どもが多く（学年全体と

して）、合体で「三角おにごっこ」をすると、円の中からほとんど出れない子どもが散見されました。学年末に近づきようやく、どんどん前には出るようになってはきています。

子どもたちが1年生の体育で経験したボール運動遊びは、「的当て（手を使う）」、「クリケットのようなキックベース」、「転がしドッジボール」です。学校の教材を見てみると、フラッグフットボール、タグラグビー教材が豊富にあり、それを実践する人が多くいるように見えます（かと言って、こちらも系統的にやっている様子はありません）。

今年度のコロナ禍の中で、中学年以上は、「攻防入り乱れ型」が一斉になくなり、「ネット型」として、プレルボールやキャッチバレーをやっています。サッカーにとりくもうとしている学年もあり、時間がるときには上から見えています。見ている限り、経験者優位の授業に見受けられます（高学年はひたすらシュート練習なども・・・）。

ここまで、6月からの9ヶ月、子どもと学ぶ中で、「常に型にはまろう」「正解の型は何か」

とする子どもたちの雰囲気を感じていました。例えば、一番初めの体育の授業で行った「鉄棒遊び」では、「自由にやっごらん」と声をかけると、「前回りしていい?」「さか上がりしたらいいの?」など、どの「技」をすればよいかを問う子がほとんどでした。それは他の教科でも同様であり、昨年1年間、決められた枠の中でのみ積極的に動き、その枠通りに積極的に動くことができた子が「評価」され続けてきたのではないかと考えています。

低学年体育の「遊び」の重要性を感じるとともに、学校内に、低学年体育の運動遊びをどのように文化として位置づけていくか課題があるようにも感じています。

今回、ボール運動遊びの中で、じゃまじゃまサッカーを取り扱います。各学年の教科課程や、体育部の資料等に目を通して、ボールを足で扱う運動は系統的に行われている様子はありません。

そのため 今回の実戦では、ボールを足で扱うボール運動遊びとして、「じゃまじゃまサッカー」を教材として実践することで、子どもたちの多様な運動経験を保障するとともに、ボールを足で扱うことの難しさと楽しさを体験させたいと考えます。

「じゃまじゃまサッカー」の実践を重ねる中で、休み時間に楽しくボールを蹴っている様子が多くみられるようになりました。また、クラスの子どもたちが、ゲーム的要素が高いものへの関心が高いこと、問題があれば話し合いをすることが好きであるからこそ、「じゃまじゃまサッカー」は、子どもたちにとって最適な教材であるとも考えます。

この授業を通じて、運動経験を広げるとともに、学習集団の力も高めることができたらと思います。

## 2.実践の全体計画

### 《ねらい》

- ・ボールを足で扱うことは、難しいけど楽しいという感覚を体験させる
- ・低学年の発達に応じた、空間認知（時空間等）の力を養う
- ・集団で作戦を立てて取り組む楽しさを体験させる

### 《当初の全体計画》9時間

次(日付)	内容	ねらい(●)と予想される困り感(■)
1(1/18)	ボールフィーリング じゃまじゃまサッカー(鬼はコーンで)	●実際のコートに慣れ、ルールを把握させる
2(1/25)	ボールフィーリング じゃまじゃまサッカー(以後、3vs2のゲーム)	●実際にゲームをする中で、困り感を出す ■じゃまゾーンに侵入できない
3(2/1)	ボールフィーリング じゃまじゃまサッカー	●実際にゲームをする中で、困り感を出す ■じゃまゾーンに侵入できない
4(2/8)	ボールフィーリング じゃまじゃまサッカー	●実際にゲームをする中で、困り感を出す

		<ul style="list-style-type: none"> <li>■じゃまゾーンに侵入できない</li> <li>■突破後、ゴールが決まらない</li> </ul>
5 (2/15)	ボールフィーリング じゃまじゃまサッカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実際にゲームをする中で、困り感を出す</li> <li>■じゃまゾーンに侵入できない</li> <li>■突破後、ゴールが決まらない</li> </ul>
6 (2/22)	ボールフィーリング じゃまじゃまサッカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●班で作戦を考える</li> <li>■突破後、ゴールが決まらない</li> <li>■作戦通り行かない</li> </ul>
7 (3/1)	ボールフィーリング じゃまじゃまサッカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●班で作戦を考える</li> <li>■突破後、ゴールが決まらない</li> <li>■作戦通り行かない</li> </ul>
8 (3/8)	ボールフィーリング じゃまじゃまサッカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●班で作戦を考える</li> <li>■突破後、ゴールが決まらない</li> <li>■作戦通り行かない</li> </ul>
9 (3/15)	ボールフィーリング じゃまじゃまサッカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●班で作戦を考える</li> <li>■突破後、ゴールが決まらない</li> <li>■作戦通り行かない</li> </ul>

### 《実践の具体的な内容》

- ・ 3対2
- ・ 6人/組 5チーム (1チームは7人)
- ・ 試合時間 1分×4/試合 (攻めと守りを2回ずつ)
- ・ コート2面
- ・ パスなし

■攻めチーム：フィールド3人、ボールパーソン2人、記録1人

■守りチーム：フィールド2人、記録1人、コーチ2人

■試合のないチーム (1チーム)：両フィールドの副審2人、ボールパーソン4人

### 《サッカーの本質に引き寄せて、子どもたちと楽しみたいところ》

- ・ ゴールに向かい、点を決める (サッカーの一番の醍醐味)
- ・ 自分のシュートが入りやすいポイントを探る
- ・ どう突破するか (時空間把握とスペースを抜ける楽しさ)
- ・ 点をとるために、みんなで作戦を考え、実行する楽しさ

### 《計画段階で予想される課題・困り感とその克服に向けた手立て》

ア) スタートを切れない子どもたち

→シュートゾーンへ入れたことをポイント化（シュートゾーンに入れたことでの加点）

イ) 守備側から大きく蹴り出されて起こる時間の浪費

→マルチボールシステム（ボール複数個）で、プレー時間の確保

ウ) 突破はできたが、ゴールに入らないことから起こる面白くない気持ち

→アでの対応をすれば、同時に克服できるか

エ) じゃまゾーンへのトライは増えたが、シュートゾーンまで辿り着かない

→じゃまゾーンを狭くするなど、オーガナイズを変更することで克服できるのではないか

### 3.実践記録

【0 時間目 じゃまじゃまサッカーの前にやってきた遊び ～布石として～】

ア) だるまさんが転んだでコーンとり（ボールなし）<図1>

→違う陣地（空間）に入るイメージ作り

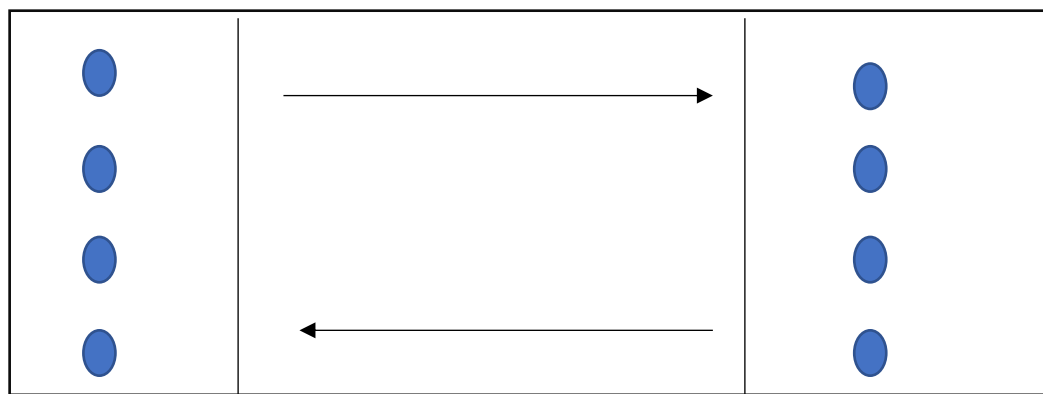


図 1

イ) じゃまじゃまサッカーと同じコートで、鬼ごっこ（子どもたちはじゃまじゃまサッカーは知りません）<図2>

→先の空間に抜けるイメージ作り

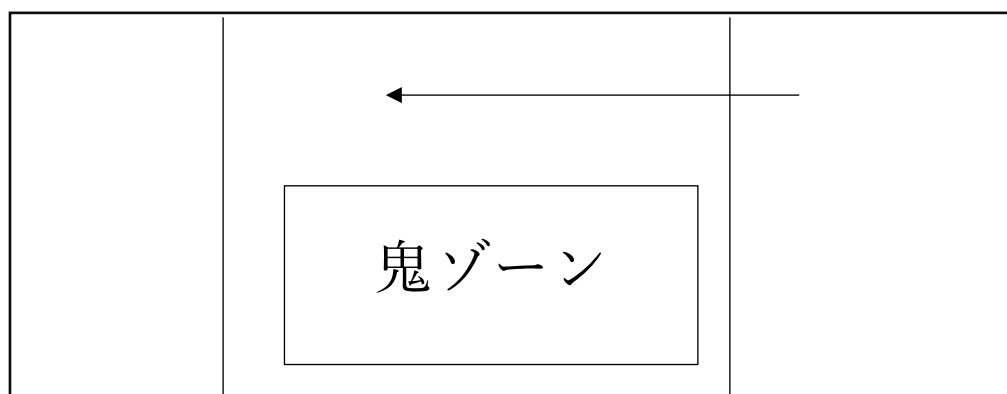


図 2

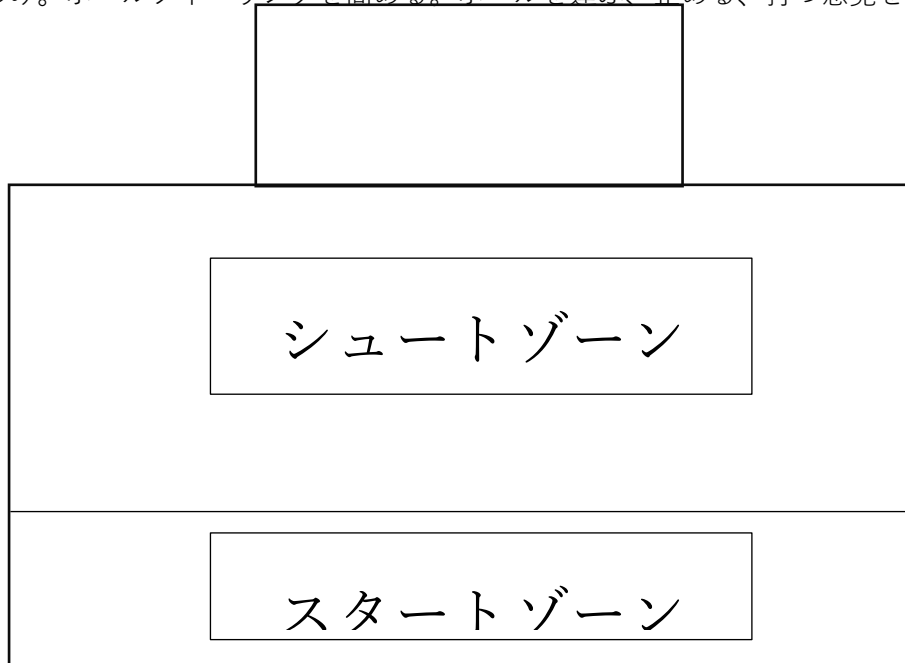
ウ) だるまさんが転んだでボール運び

→1のコーンなし、ボールあり。ボールフィーリングを高める

エ) だるまさんが転んだでシュートゲーム <図3>

→じゃまゾーンなし、じゃまなしで、シュートゾーンに入ってシュートを打つ。ただし移動はだるまさんが転んだの時のみ。ボールフィーリングを高める。ボールを運ぶ、止める、打つ感覚を楽しみながら

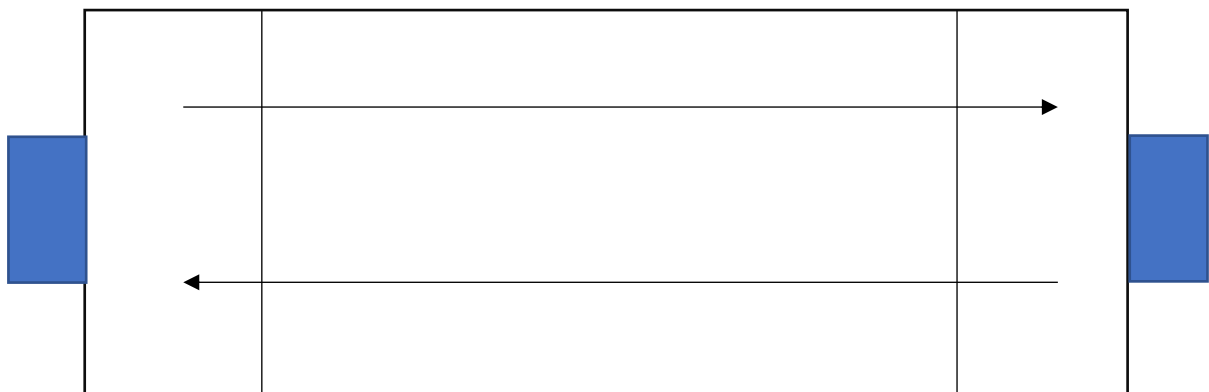
図3



だるまさんが転んだを一貫して貫いているため、子どもたちは、楽しく遊んでいる。色々な、だるまさんが転んだと思っているかもしれません。

だるまさんが転んだを使っているのは、誰もが「動く時」「止まる時」がわかりやすく、それに伴って、ボールを動かす、ボールを止めるといったこととリンクさせやすいのではないかと考えて取り入れました。

図4



オ) ラン with the ボール&ストップ <図4>

- ・ドリブルで、交互にゴールを目指す
- ・途中に吹かれる笛の3回目で、ボールとともにストップする
- ・ゴールに蹴り込む楽しさと感覚

- ・ボール操作の基本的な動き（ボールを運ぶ・止める）を身につける

### 【1 時間目】 1月18日（月）

- ・ コーンが鬼
- ・ コーン4～6つ
- ・ オーガナイズ 13m(5m-4m-4m)×15m
- ・ 途中、私が、サイドステップでじゃまに入る

■じゃま（守り）が動かない安心感からか、シュートゾーンヘトライしない子どもは、いなかった。

### 【2 時間目（合体）】 1月19日（火）（追加）

- ・ コーンが鬼
- ・ オーガナイズ 13m(5m-4m-4m)×15m
- ・ 途中、サイドステップでじゃまに入る→タイミングを見る子どもたち
- ・ じゃまゾーンを早く抜けようとコーチング

■合体のため非常に短い時間でしたが、運よく2日続けて実践ができてよかった。私がじゃまに入ると、タイミングをみるとともに、周りの子どもたちは、「今やで」や「今はあかんで」とか、「先生は意地悪やから戻ってくるで」などの声があがりました。

### 【3 時間目】 1月20日（水）（追加）

- ・ じゃまじゃまサッカー
- ・ 肋木がゴール
- ・ コート1面
- ・ オーガナイズ 9.5m(5m-1.5m-3m)×15m
- ・ 4人班
- ・ お試し程度
- ・ 待っている間は、わかかを目指せ

■本来であれば、体育館体育であったが、他学年との調整ミスで体育館体育がなしに。外を見てみると運動場が空いていたため、急遽外へ。しかし、雨の後で運動場がぬかるんでいたため、比較的乾いていた、肋木周辺を使い、実践した。

■嬉しいことに、やりたい子が多くいて、時間の配分ミスで攻撃ができなかった子からは、大ブーイング（当然です）。

### 【4 時間目】 2月1日（月）

- ・じゃまじゃまサッカー
- ・オーガナイズ  $11m(5m-2m-3m) \times 15m$
- ・6人チーム ※朝学習の時間に、チーム分けの意図、仕事の割り振りを教室で話す
- ・コート2面

■試合に出る順番などを教室で話し合いをさせていなかったため、そこでの時間のロスあり。ゲームの初めの頃は、1分間の内、30秒ほど睨み合いが起きていたが、途中でコーチングを入れることで、どんどん前に攻める子が増えてきたと感じます。

■また、ゴールが入りだすと、その雰囲気におされて積極的に前に出るようになった印象があります。

### 【5時間目 ※教室で映像分析】 2月2日（火）

T この前の試合の映像を見てみようか。

C えっー恥ずかしいやん！

T まずAグループとBグループの試合ね。こんな感じ。

C (30秒動かないことに笑い)

T ここ見て、ルカが抜けるところ

C おー

T なんでルカは、ここに抜けたんだろうね？

C じゃまがいなかったから

T なるほど、じゃまがいな。もう一度見てみようか

C ほんまやー。じゃまは全部向こうにおる

T 次はCとDね。(映像を進めながら) うーんと、画面の奥の方見て、コハルがステップ踏んで準備してるよね、そしてここに、アユムがいるね。ちょっと、この辺に注目しておいて

C うわ、行った！

T 上手だね。もう一つはこのまま、真ん中のコトサ見てて(タイミングを見て、ディフェンスのギャップ(間)を抜ける)

C うわーうまい

T アユムみたいにスピードはないけど、コトサはどうしてた？

C なんか、待ってた

T そうだよ。前にチャレンジすることがまずは大事だけど、タイミングって大事ね

T そしたら、最後はEとAね。(マンマークされて前に出れないところを果敢にチャレンジしようとしているところを切り取って) これさ、何でシンジは前に行かないの？

C だって、前にじゃまおるもん。あれは行かれへんで先生

T なるほど、前に入られると進めないよね。これはじゃまする時の技にできそうだね。

T このサナのところもいいね。うまくタイミングを見てるよね。

<ボールパーソンにも触れて>

T チームA、ボール入れるの上手いね。レンホの渡し方見てみ。強くて投げたりせずに、レンホみたいに、ポンと渡してあげると、すぐに攻めができるよね。上手い！

### 【6時間目】 2月8日（月）

- ・じゃまじゃまサッカー
- ・オーガナイズ  $11m(5m-2m-3m) \times 15m$
- ・6人チーム
- ・コート2面

- ・ 攻め、じゃま、審判
- ・ メンバー表導入 → その回限りで廃止

■ ボールパーソンの効果的な活用で、プレー時間が多く保証され、攻めと守りのデュエルの時間が長く起こった事象が発生したことは大きいのではないかと思います。

■ 手で持って来る子が、まだ多くいますが、子どもの視線を見ると、「スペースを探し、どこからスタートしたら良いかを考えている」様子が見受けられました。これは非常に重要な要素だと考えます。

■ 心配していた子の一人が、じゃまの時に、ものすごい輝きを見せたことは本当に嬉しいこと。攻めではなく、守りで輝く子どもたちの姿があるのも、じゃまじゃまサッカーの魅力であると感じました。

■ メンバー表が簡易すぎて、無意味 → グループノートの導入へ

### 【7 時間目 ※雨のため映像分析】 2月15日（月）

T この前じゃまじゃまサッカーやってみてどうやった？

C 楽しかった～

C 今日はこの感じ、映像見るんやろ？早く見ようや～

T ほな見よか。この前の試合でここすごかったで、というプレーあった？

C あったけど、1週間前やから忘れた

T そうやったね。すぐに見せたらよかったね。ごめんな。

C 次はすぐに見せてや～

C 試合終わったすぐの 2 時間目は、この授業がいいよな！それぞれ～！

#### 映像視聴

T どう？思い出した？

C うん！

T いいなと思ったプレーない？

C 何やったけ、じゃまがすごいところあった。

T どこ？どの辺か覚えてる？

C 最後のへん

T これだね。どこがすごい？

C 全然抜かれへん (2vs2) の状況が1分間続く

C でもさあ、ユウトめっちゃ点決めてへん？

C ほんまや～！

C やから、うちはずっと、ユウトきてるで！って言ったのに、シンジとケイスケ聞こえてなかった

ん

T ユウトは何で、あんなに点を決めることができたの？

C だって、他のところめっちゃ空いてたから、ここやったらいけるなって思ったもん

T なるほど、守り方はグループで相談したらいいよね。あとさ、周りの声かけ、コーチ役やってたのすごいね

C コーチってなに？

T ルカとレンホみたいに、「こっちから来てるで」って声かけしてる人のこと。チームのためにアドバイス？みたいな声かけをできる人かな。それをコーチとか、コーチングって言います

C それやったら、やってるわ、今でも

T そうか、みんなすごいね。他にはどうかな？

C けっこうみんな、足の裏でボール触ってたで。

T ほお。みんなはどうして足の裏でボール触るの？

C どゆこと？

T ごめん、言い方変えるわ。足の裏で触ってる人が多いってことやんね？

C うん

T 何で足の裏を使ってるの？

C だって、ボール止まるもん

T なるほど。ちょっと見てみよか

C (見ながら) みんな上手いなあ～



T 他にないかな？ないなら、先生言ってもいい？  
C ええよ～ 今日先生ポイントはどこやろな  
T まずこのプレー。ユイタは1回目は取られるけど、何で2回目はなかなか取られないか、考えながら見てみて  
C 行ったけど戻って行った  
C 横に行ってるから？  
T なるほど。この守りはユアさんだね。どうして取らなかったの？  
C だって、足があったから

T 足か・・・。  
C あ～足があったってじゃまやったからボールに取れなかったってこと？  
C うん  
T みんなわかった？つまり、ユイタとユアの間に、ユイタの足があったから、ボールに行けなかったってことだね。足蹴りに行ったら  
C それはあかんで  
T だよな。なるほど、ドリブルの仕方にも工夫があるね

■じゃまじゃまサッカーの後には、映像を見ることを楽しみにしている子どもが多いことは、非常に嬉しい。自分の試合を見ることに楽しみを覚えていることは、次回の意欲にもつながるものと考えています。

#### 【8時間目】 2月22日（月）

- ・じゃまじゃまサッカー
- ・オーガナイズ 11m(5m-2m-3m)×15m
- ・6人チーム
- ・コート2面
- ・攻め、じゃま、審判
- ・グループノート導入→朝学習で役割分担を決めて、運動場へ

月 日	( ) 試合目		対戦チーム ( )		ふりかえり
名前	攻め		守り (じゃま)		
	前半	後半	前半	後半	
さな (き)					
ゆうせい					
いつき					
れいな					
ゆいた					
ゆめの					
合計					
記録者					
ボールパーソン・コーチ					
メンバー	前半	後半	前半	後半	

グループノートには、上の用紙を貼っています

- グループノートでメンバーを整理することで、ゲーム前後のごたつきは軽減されたと考えます。
- ゴールの数、守った数を視覚化することで、子どもたちはよりゲームに入っていた感じがする。
- 教室で聞いたところ、全てのグループが、メンバー全員がシュートまで行った、全員得点できたとするグループが、5チーム中3チームという結果でした。

### 【ここまで実践をやってきて】

<マルチボールシステム、スタートゾーンの扱いについて>

- ・新しく導入したマルチボールシステムによって、プレーの時間が長くなったのではないかと考えます。また、攻めと守りの駆け引きからの突破、そしてゴールはサッカーの魅力的なところであり、フィールドの中でボールを足で扱う時間が長くなることは、サッカーの本質に照らしても、非常に大切な視点だと感じています。
- ・スタートゾーンならどこからでも始めていいとしているのは、攻撃の起点をどこに置くのか選択させたいと考えているからです。まだ手で持って帰ってくる子どもがいますが、その時は全速力です。そこには早くプレーしたい、点を決めたいとの気持ちからだと思います。それはそれで○にしたいのです。授業の際には、プレー中は、基本的に「手を使わない」としていますが、それは少しずついいのではないかと思います。

<グループノートについて>

・ここは完全に抜け落ちていました。この間の委員会や研究部で指摘してもらい、最終盤にさしかかってようやく導入しました。寄り合って話をして、活動することの好きな子どもたちだからこそ、導入が遅くなったことは後悔しています。

<最後に>

・何より子どもたちが楽しそうにプレーしたり、グループでどうにかしようと声かけをしたりしているところに励まされています。

今回は私事で日程変更となり、大変申し訳ありませんでした。そのような中、このように実践報告の機会をいただき、大変感謝しています。

私自身、サッカーの経験や指導歴は長く、現在関わっている試合のレベルは高いものがあるかと思えます。しかく、同志会歴は浅く、じゃまじゃまサッカーは今回が初めての実践です。みなさんの忌憚のないご意見等で、さらに深く学んできたと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【参考文献】

森 敏生「体育同志会の球技研究史を探る」運動文化研究 28 38-55 2011 年

船富公二「じゃまじゃまサッカーの学習の流れと球技教材の研究史的価値と学習価値」キックオフ 36 57-69 2007 年

日名 大悟「なぜ、どうして、サッカー分科会での文化的論議が熱くなったのか？」運動文化研究 2-10

学校体育研究同志会編『新・みんなが輝く体育1 小学校低学年体育の授業』創文企画 2020年

学校体育研究同志会編『ボール運動ハンドブック』